

【議事】定 2

(1) 国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」(JEM)に係る安全の確保に関する調査審議について

JAXA の武内 有人システム安全・ミッション保証室長が資料 3-1-1(安全確認状況)を説明した後、下記のような質疑応答があった。

池上: JEM は NASA に送られていると説明があったが、どのように保管されているのか。

JAXA 武内: 日本で安全審査を済ませていても、NASA としての審査が行われる。今それをやっているところである。

池上: 窒素パーズをすとか、そういうことを質問している。

JAXA 武内: JAXA 立会いの下で開梱し、NASA が安全審査を行ない、評価をしたところで、現在はシャトルへの積み込みを行っているところである。

文科省の池原参事官が資料 3-1-2(安全部会での調査審議)を説明した後、下記のような質疑応答があった。

青江: 安全審査を通らなければ、JEM に搭載できなくなるわけだが、影響が落ちた物だけに留まるわけではなく、JEM の組み立ての全体計画に影響することがあると推測する。審査に落ちた物だけ遅らせれば済むようなものが何かあるのか。

JAXA 武内: 実験装置は独立した物なので、影響はその範囲に留まる。しかし実験ができなくなることで自体が大きな影響を与える。1と2はJEM運用のためのものであるから、遅らせられないが、HTV 近傍域通信装置は、HTV 運用に間に合えば良い。

(2) その他

現状報告の中の「中国の行った衛星破壊実験」に関し、下記のような議論があった。

青江: 中国が行った衛星破壊実験について、外務省が対応しているということなので、宇宙開発委員会がとやかく言うことではないのであろうが、デブリの問題は重要であり、宇宙開発委員会としても勉強しなければならないことだと思う。

奈良: 外務省を通じ米国から得た情報では 10 cm 以上のものが一万個発生したという。日本宇宙フォーラムもデブリ観測ができるようなので、JAXA を通じてやっていく。現在、詳細情報が無く、外務省を通じた米国の分析を待っている。

松尾: 各国が自制しているところであり、素性の悪い話である。

青江: 日本として強く言うべきことではないか。

池原: 外務省も中国に問い合わせているが、まだ返事が返ってこない。

藤田: COPUOS が近々開催される、その席で各国が口を揃えて抗議を行うことが最良だと考えている。

ここで、委員会は終了したが、藤田局長がすぐに記者団に取り囲まれ、質問攻めにあっていた。